

洋書輸入協会会報

NO. 4

昭和42年8月

理 事 会 報 告

7月25日(火)

関西副支部長 緑書房 丹羽理事 出席のもとに本部事務所に於て理事会開催。

丹羽理事より関西支部事務所設置につき次の通り経過報告がなされ、これを承認されました。

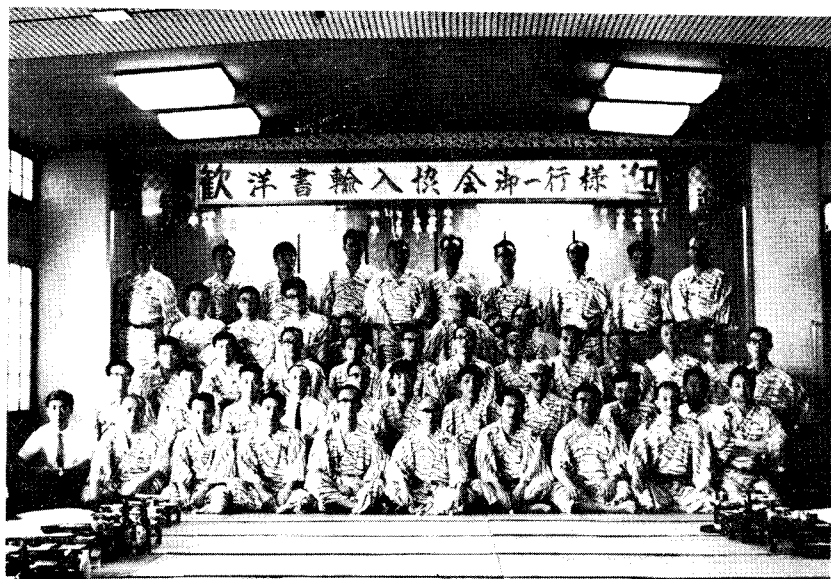
関西支部 新事務所

大阪市北区芝田町28 才一山中ビル3階4号室 電話話請中 10.42坪 契約3年
保証金 ¥700,000 家賃 ¥40,000 共益費約 ¥3,000 電話料 約¥1,500
ガス、水道料約 ¥3,000~4,000

尚、人件費会議用テーブル等什器備品購入費として¥300,000 8月10日迄に送金希望の旨要請あり、審議の上承認されました。

当協会の英文名 Japan Book Importers Association につき審議されましたが、今後も本名称を使用するとともに日本橋郵便局に登録することに決定、続いて雑誌資料、経営研究、渉外PR、会報委員会報告にうつり、各委員長よりそれぞれ報告がなされました。

Pergamon Press 社より事務所設置に対し £50-0-0 の寄附がご座いました。



東西合同懇親旅行会 昭和42.6.24 於三谷温泉松風園
メクレンブルグ商会 鈴木氏撮影
(会報3号に掲載予定でしたが、同号記事満載のため4号に掲載致しました。ご諒承願います)

東海懇談会 昭和42年度総会報告

去る7月13日(木)午後6時より昭和42年度総会が開催され次の通り報告及決議されましたのでご報告致します。
記

1. 新任紹介

江口武直氏(海外出版貿易(株)名古屋支店長)
柳田直義氏(日本洋書販売配給(株)名古屋支社長)

1. 昭和41年度会計報告 承認されました。

1. 幹事改選

規約に基づき幹事として4社を選出(留任)
丸 善(株)(株)紀伊国屋
海外出版貿易(株) ユーエスエシヤティクカンパニー
幹事長

丸善(株)名古屋支店長 石井茂夫氏(留任)
が選出されました。

1. 提案—担当役員の設置— 可決され次の通り決定しました。

総務・会計—丸善
文化・厚生—紀伊国屋、海外出版貿易、ユーエスエシヤティク

1. オ一回りクリエーション(旅行)について次の通り決定

日時 8月5～6日(土、日)

場所 三谷温泉

詳細については文化厚生担当で決めた後日連絡する。

1. “私立大学図書館協会々報”5月号に掲載された「外国雑誌購読料の算出方法について」(中部工業大学図書館宮内省司著)について問題点があるので全会員に配布(コピー)し対処する。

1. 通常会費について

会費は定期的に納入する。納入方法は、
イ) 安田信託銀行名古屋支店 普通預金 No. 25116
洋書輸入協会東海懇談会へ振込
(副報告書を丸善へ必ず送附願います)

ロ) 会合の時持参納入 以上

尚出席は

紀伊国屋 2名	海外出版 2名
ユーエスエシヤティク 2名	ナウカ 1名
洋 販 1名	大竹書店 1名
丸 善 2名	の計7社11名

欠席は

海外書籍

渉外PR委員会報告

7月中委員長U. S. の山川氏 副委員長国際書房服部氏
が中心となり数回に亘り会合し国外に対するPR関係サー
キュラーレターの準備を完了しました。同PRサーキュ
ラーレターは国内向と海外向け2種類作製し、関連委員会並
に理事会の承認を得ました。

海外出版社、学会、協会等宛サーキュラーレターも2種
類作製、1種は書籍用他の1種は雑誌社宛に当協会のPR
と同時に今後各出版社と緊密な連絡をとり情報交換する
こと、また東京本部宛と大阪関西支部宛にカタログ其の
他のインフォメーションを送送する様依頼しました。雑誌
出版元宛には本年は約80社を選びました。

此等カタログ、データー其の他のインフォメーション
は到着次第東西事務所に保管して協会員が利用できる様に
致したいと思います。(山川記)

雑誌資料委員会報告

42年7月20日(木)

委員長 日賀(松井氏) 副委員長 国際(服部J) 丸善
(高田氏) 紀伊国屋(佐野氏) 海外(三原氏、筒井氏)
US(今泉氏) 三洋(武田氏)

(1) 照会先最終リスト作成 84社に決定。

(2) 照会文(USより別送) Subscriber Add の記入要項も要求。

(3) 発送はレター用紙まち、レターヘッドはもとのまま。

(4) 照会文のサインは理事会の承認を受けたのち Chief of Subscription Committeeのサインを使用したい。(服部記)

経営研究委員会報告

理事会の承認を得て、次の2点について、アンケートを
求めることになりました。近日用紙が送られますので、ご
面倒ながらご協力願います。

(1) 独占販売権の調査について。

(2) 経営研究の基礎資料の調査について。

洋書交換委員会報告

副委員長(海外出版)の三原氏と相談の結果、下記の通り
報告します。

(1) 古書会館を利用する交換会は経済的には効果的でないから一応見送ることとして、Want List, Offer List による会員相互間の交換を行う事務を進めることにする。但し、協会の事務員の協力がなければ仲々出来がたい故に事務長の外に新事務員が早く採用されることを望む。

(2) 大学図書館の Back Number の古い部分の欠号の補充要請があった場合、広く会員に流して、会員からの補充をはかることが出来ればよいと思う。但し、この場合会員書店に古い Odd Number が斯様な注文を受入れる程度にあるかどうか、一応聞き合わせる必要があると思う。(服部記)

会 員 紹 介

“フランス書一筋に” 有限会社 オ三書房洋書部

オ三書房はその前身を外語学院出版部と云い、故藤井嘉作社長(外大、仏語卒)が昭和7年「最新フランス語講座」(全6巻)を発刊したのに始まり、以後仏独の教材・参考書を逐次出版し、昭和16年頃には中国語教科書も手がけ本郷の文求堂と肩を並べたこともある。戦後現社名に改め有限会社とし、輝子夫人を社長に、令息嘉明副社長石川彰常務らのプレーンにより、中堅出版社として手堅く仏独関係図書の出版業務を続けて居る。

さてその洋書部は昭和28年1月、当時お茶の水にあった三笠書房洋書部の輸入業務をそのまま引継いだもので、担当の^{ふたがみ}女史(旧姓)を同時に招聘し、専らフランス文学にたずさわる方々の注文を取継いで、今日に至って居る。仏文一筋にその^{きめ}木目の細かさは関係者の特に注目するところで、現在の^{ききやま}向山女史もその路線を堅く護り、新旧各種フランス図書の輸入に盡力されて居る。

外国郵便事故係員の苦労話

東京中央郵便局オ一外国郵便課到着事故係 ^{ぬま}沼 ^き城 通 夫

外国から郵送されてくる書籍、雑誌などの大口印刷物には、封皮破損のため名あて住所記載の票符の一部、あるいは全部が到着時すでに脱落したあて所不明のものが時々あって困らされます。

こういう場合、係員は印刷物を開ひし、内部に名あての手がかりがないかと調べるのですが、西欧とくに西独、スイス、英国などからのものは、ながい商習慣からか、たいてい名あて住所記載のコピーがはいっているので安心感もあって助かります。

また、特別郵袋印刷物（同一名あて人にあてる印刷物を特別の締切郵袋に納めたもの）で名あて票札が脱落して到着するものも割合に多く、そのうち月に数件ではあるが、郵袋から出しても中の印刷物に名あて住所の記載がなく、そのうえ内部にも名あて住所のコピーなどのないものがありますが、これは大きいだけに取扱上たいへん苦勞させられます。

これらの不着事故をなくすため、大口の印刷物には名あて住所などのコピーを内部にいれ、特別郵袋印刷物の場合は中の印刷物にも名あて住所を記載することが、万一のために必要ですから、お気付の際は必ず差出人へ善処を要請して下さい。

一方、主として単冊の雑誌などの小口印刷物は協会員扱いで予約講読している個人あてのものが多いのですが、これらは機械によるオートメーション発送のために、印刷イ

ンクの強弱、二重印刷、名あて票符を貼付する糊の強弱が配達不能の原因となり、また、破封して到着するものも多くて調査修補などで手間のかかるものが割合にあります。

たとえば包装紙の弱かった『セブン・ティーン』誌のように、郵便局でも余りひどいものは差出郵政庁を通じて差出人へ注意していますが、皆様からお気付の際は差出人へ直接要請ねがいたいものです。

また、小口印刷物で住所の一部省略による名あて不完全なものも可なり多く、調査しても配達局の判明しないもの、配達局へ送達されても配達不能となるものなどあり困らされます。このうち外国人による省略と思われるものをよく見受けませんが、講読予約を受付ける際、それぞれの出版物の発送名あて字数制限を確め、日本人による住所の省略で発注をしてもらえれば、相当数の名あて不完全印刷物が救われるでしょう。

以上いくつかの苦勞話とお願いを記しましたが、皆様の御協力により少しでも事故郵便物が減るならば幸せです。

なお、配達不能の印刷物は差出人へ返送しておりますが、脱出品の雑誌類は三ヶ月、書籍は一ヶ年、それぞれの外国通常郵便物の交換局（東京は中央郵便局）で保管しておりますので、御連絡をいただければ調査致します。

編者註・脱出品とは、包装不完全のために内容品が包装から抜け出してしまい、どの包装に入っていたものか確定出来ないものをいう。

会 員 紹 介

“聖業なりとの信念で” 株式会社 独亜書院

当社はオ一次大戦直後神戸市に於て創立し自然科学を中心とした書籍雑誌の輸入業として発足、当時数少い洋書輸入業者の一環として活躍しておりましたが、オ二次大戦に波及する国際情勢の悪化に伴い営業を中絶の己むなきに至りました。昭和27年2月現在地に於て先輩諸賢と共に業務を再開致しました現社長上柳貢は創業以来の古い経験を生かし、専ら医学を主体として他の自然科学の分野にも逐次範囲を広め後輩の育成に努めつつ地域的には全国の大学研究機関に手広く顧客を有し、聖業の信念で励んでおります。

然し乍ら東京の大手業者に比較して、関西という地の利の悪さと暖簾の貧しさを痛感致しておりますが、今後も主体を医学の専門店に置き、小規模乍ら堅実に進みたいと念じております。

尚日本医学図書館協会の賛助会員として指定され、毎年開催される図書館会議総会に招待され出席しております

戦後洋書輸入協会関西支部が結成されて以来直ちに之に参加し、爾来協会の発展の為に聊かなりとも貢献すべく努力し今日に至りました。

“読書は心の糧” エンデルレ書店

店主ルーベルト・エンデルレ氏は1935年（昭和10年）22才で、有名なヘルダー出版社からカトリック大辞典（富山房発行）の日本編集部派遣員として来日、上梓まで約3年間その業務に従事し、かたわら大学の先生方の要望で、頼まれた図書を本国から取寄せたのがそもその始まり。戦前は欧亜書房の名で洋書を輸入していたが、要望で事務所共焼失、戦後は、いち早く上智学院内に仮事務所を設けてエンデルレ書店と改め出版業を再開、更に現在地（四ッ谷駅前）に店舗を構え、輸入業務が許されるや同業9社と共に再び欧米各国との間に連絡の路を開いた。現在はカトリックミッション関係を中心に人文科学その他各分野の図書を輸入販売し、又各種出版、翻訳も行い、Side Line として宗教用品も取扱う等手広く活動して居る。ヘルダー社に範をとり、書籍事業の真髄「読書は心の糧」をモットーに、日独書籍業界に多くの貢献をされ、又今後もそうすることを念願されて居る。

関西支部だより

42. 7. 11 役員会開催：新事務所候補物件の視察並びに事務所設置を最終的に決定する為役員会を開催す。和田支部長代理以下8社出席、北区芝田町28、芥一山中ビル三階四号室に新しい事務所を設置する事を内定す。

引つづいて雑誌委員会を開催、シーズンに先立ち対策を協議す。座長井上委員（丸善販支）

42. 7. 20 7月定例会開催。東阪急ビル6階。17社出席。役員会より提出の支部事務所設置の件を正式承認し、之に伴う諸般の手続一切を役員会に一任する事を決議す。

42. 7. 25 本部理事会に副支部長（丹羽）出席、本部理事会に於て正式に支部事務所開設の件承認を受く。

42. 7. 31 芥一山中ビル賃貸契約を正式に締結す。

— × — × —

○ 支部事務所は8月中旬頃正式開所の予定。

○ 誤差調査。6月分17通送附さる。目下支部にて分析検討中。

○ 名簿原稿。3社を除き集められ目下名簿作成中。

以 上

東海懇談会だより

リクリエーション 奥三河に涼を求めて

去る十三日の総会にて決定致しました本年度芥一回リクリエーション（旅行）について、文化厚生担当者にて検討致しました結果、左記にて実施する事になりましたのでご案内致します。

何卒万障お繰合せの上全員ご出席されます様お願い致します。

記

日 時 8月5・6日（土、日曜日）5日の午後3時に栄丸善東「茶ばしら」に集合

所 奥三河湯谷温泉「松風園」（電話三河大野局 160 番）

会 費 1,500円（不足金は通常会費より当てる） 二人以上ご希席の場合は一人につき3,000円

NEWS欄

■ Mr. K. M. Medappa 7月中旬来日。全氏は米国 I. B. E. G. の South East Representative で、Head Office の Bombay から米国訪問の帰途立寄られたもの。

■ Mr. John Butler 7月中旬来日。全氏は、米国 Allyn and Bacon, Inc. の Representative。

■ Mr. Pathom Vongsuravattana 7月下旬来日。全氏は仏国 Librairie Larousse より派遣されたもの。

■ Mr. N. P. Jain 7月下旬来日。全氏は Delhi の Motilal Banarasidas の代表者。

■ Mr. William Norris は9月15日頃来日。10日間ほど滞日予定。全氏は Collet's Holding Ltd., London の輸出部長。

○

■ このたびイタリアの出版社フェルトリネツリによって、1919年から1939年にいたるコミンテルンに関する基本資料が復刻、刊行されはじめた。株式会社イタリア書房（フェルトリネツリ社日本総代理店）はその機会にフェルトリネツリ研究所（モスクワの M. L. 研究所、オランダの社会史研究所とならぶ世界で有数の社会科学研究所）の所長であるデルボー氏を日本に招待し、東京、京都において講演会を開催した。

○

■ フランスの出版社、EDHIS（社会史書店）は昨年フランス革命期の重要史料を復刻しはじめた。まだ10点にすぎないが、これらはいずれもきわめて入手困難な文献ばかりで、殆んど最初の出版と見られるものも少なくない。この芥一回分のリプリントは、バブーフを中心とする農業共産主義関係の史料に限られているが、EDHIS は今後こうした貴重な史料を小部数（200部づつ）続けて復刻する見込みである。

なお EDHIS の全出版物の日本における総代理権は「イタリア書房」が獲得した。

○

■ ドナルド・ムア社、斎藤氏米英取引先出版社訪問のため7月11日出発、帰国は8月20日頃の予定。尚同社扱いの Everyman's Library 本国代価改正に依り8月10日より実施の旨案内がございました。

旧代価	新代価
8/6	9/6
9/6	10/6
10/6	11/6
12/6	13/6
15/-	16/-

尚 6/6 & 18/- の2点はともに代価変更ご座いません。

昭和42年8月 第4号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 電話 271-6901